

これから公共政策大学院で学ぶ皆さんへ

京都大学公共政策大学院十四期生 平野 晶子

これから京都大学公共政策大学院での時間を過ごす方に向けて、私の過ごした2年間に
ついてお話ししていこうと思います。

まずは私がこの大学院に入りたと思った理由から。京大公共には様々なバックグラウンドを持ち、様々な理由で門を叩く学生がいます。私自身がこの大学院を目指したきっかけとなったのは、京大公共主催の講演会でした。学部1年生の時のことです。私はたまたま講演会に参加し、内容はさることながら、政策に携わろうとする人たちの集まりの熱気に圧倒されたのです。そして、「公共政策というキーワードに惹かれて集まってくる学生に囲まれて勉強してみたい」と思うようになりまし。また、当時、京都市会議員の事務所で学生秘書をしていたこともあり、政策という領域に関心を持ち、学問として勉強する機会が欲しいと思うようになりました。

こうして、京大公共を目指すようになった学部1年生の私は、学部の残り3年間の計画を立てました。1,2年生の間は大学の外での学びや海外経験をめいっぱいしよう。3,4年生になればゼミも始まるから、本当にやりたい学問や院試勉強に時間を捧げよう。この学部時代に出会ったのが、国際法と国際政治学という二つの学問領域でした。国際系の分野にハマっていく学部後半の2年間でしたが、京大公共では国際系・国内政策どちらもできると考え、学部から継続的に勉強する分野を持ちつつ、引き出しを増やす院の2年間にしようと思いました。

大きな期待と抱負を胸に入学した大学院でした。しかし、いざ始めてみると周りの学生が優秀そうに見えたり、負担の大きい授業ばかりを取ってしまったたり、学部から続けている書道部を従来通りのペースで頑張ろうと

したり。睡眠時間を削ってまでもやりたいことを完遂しようとして体調を崩し、入院しました。ハードな院生生活を前にすっかり自信を無くした私でしたが、入院期間中は周りの人に助けられました。授業のレジュメを取っておいてくれる人、励まそうときれいな景色の写真を送ってくれる人、入院中の私の代わりに「書道部の作品展に行つたよ」と報告してくれる人、「平野さんの作品も見たよ、すごいね」と褒めてくれる人。同じように忙しく日々を送っているはずの同級生や先輩方の心遣いが、退院後の大学院生活に戻るにあたっての心の支えでした。ちょうどその頃、たまたま京大公共主催のイベントで一緒に卒業生の先輩方にも背中を押していただきました。その先輩方は、今でも悩んだときに（お仕事でお忙しかったり、海外赴任中で時差があったりするのにも関わらず）テレビ電話を

繋いで何時間でも語り合ってください。大学院での一番の収穫はこういった人間関係なのかもしれません。

人間関係で言及しておきたいことがもう一つ。京大公共には、社会人学生と一緒に授業を受けたり、フラットな立場で意見を求めたりする機会があります。私は入学当初から自主活動の安全保障フォーラムに所属していましたが、一つ上の学年に社会人学生が所属されていきました。安全保障フォーラムとは、日本の安全保障について外交・防衛など様々な角度から知見を深める京大公共公認の勉強会サークルです。自衛隊京都地方協力本部のご協力の下、基地や駐屯地の見学、防衛大学校を相手とした討論会を通して理論面に偏らない学びの場となっています。特に防衛大学校との討論会に向けた準備に明け暮れた数か月間、この社会人学生から厳しいご意見を頂きながら、チームのマネジメント経験を持つことができました。大きな糧になりました。時間に限りがある中で、他のメンバーの頑張りを引き出しつつ、全体のスケジュールに間に合わせるべく、全体が如何に難しいものかを知りました。過酷な数か月の間、この社会人学

生がリアルタイムできめ細やかなフィードバックをくださったことで、従来の自分のやり方を反省するとともに、自分自身では気付いていなかった長所をも発見することができました。様々な角度から刺激を受け、根拠のある自信を持つことができた経験でした。

1年生の間、授業や自主活動を通して先輩や社会人学生、OBからご指導を頂いてきた私ですが、2年生に進級してからは先輩ができました。安全保障フォーラムでは代表に就任したこともあり、新入生と一緒に活動できるのを楽しみにしていました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、授業は軒並みオンラインに。新入生と直接関わる機会は失われました。自主活動にとって4月は新入生を勧誘する大事な時期ですが、当初は新入生と連絡を取る手段さえ存在しない状況でした。京大公共では例年、入学式の際に1、2年生合同の飲み会を開催し、連絡先を交換してLINEグループを作り、情報交換の場を用意しています。しかし、飲み会どころか新入生にとって貴重な情報網であるはずのLINEグループを作ることができませんでした。4月の2週目ごろまでは新入生同士での

連絡も取り合うことができず、履修登録や自主活動に関して我々上級生に相談する術もなかったのです。安全保障フォーラムの代表として、勧誘ができないことで会の存続に危機感を覚えたのはもちろんのこと、新しい環境に入ったのにも関わらず、お互いの顔や名前さえも認識する機会がない新入生の不安を思いやると居ても立っても居られなくなりました。そこで、他の自主活動の代表者に声を掛け、連絡網の必要性について、院生代表を通じて教務課に訴えてもらいました。また、代表者同士でも、例年では各自自主活動ごとに行っていた勧誘活動を統一のガイドラインに沿って行ったり、掛け持ちをしたい新入生に対して、各活動の繁忙期を可視化した表を作成したりしました。こまめにオンライン相談会を設けることで、入会前の不安を取り除くこともできました。新型コロナウイルス感染症がなければ配慮する必要もなかったようなことについて熟考したことは、自分とは異なる状況に置かれている人の立場に立って考える機会となり、手応えを感じました。結果として、安全保障フォーラムでは8名の新入生を迎えることができました。加えて秋口には途中加

入の1年生を迎え、さらに活気のある議論の場所になっていくのではないかと期待が高まります。新型コロナウイルス感染症拡大という想定外の事態下でも、貴重な出会いと交流の場を確保できたことをとても嬉しく感じています。

人間関係を中心に大学院生活を振り返ってきましたが、これから京大公共での時間を過ごす皆さんには同級生や先輩、後輩、先生方と積極的に関わってもらいたいと思います。

他の研究科と比較して、様々な分野の先生方の授業を受講し、多様な学生の組み合わせの中で勉強できることがこの大学院の強みです。

それと同時に、特定の先生や学生と深く関わるには自分から進んで関係構築をしていく必要があります。日々の課題や就職活動の忙しさの中で、将来にわたって継続させたいと思えるような人間関係を構築していくのはなかなか難しいことです。しかし、公共政策というキーワードを共有している人に囲まれて過ごす貴重な時間をぜひ生かしてほしいです。また、社会人学生の皆さんにはぜひ、学部から進学してきた学生たちと共に語り合う時間を取って頂ければと思います。自主活動の運

営等に関して、社会人の目線からフィードバックを頂けることは、我々若い学生にとつて貴重な経験となります。学部から進学した学生さんには、社会人学生にどんどんアドバイスを頂いて、自分の力を磨いていって下さい。「この人が将来、世のため人のため活躍しているところを見たい」と思えるような仲間や、「この時期にこの人に出会えたから、自信を持って新しいことに挑戦することができた」と思えるような人に出会う二年間になるよう願っています。

